

## 1 自己評価

### I 評価結果 (別紙参照)

### II 分析・改善方策

#### (1) 豊かな人間性の育成について

- ・挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法が身につく習慣化できた。校門での「挨拶運動」も生徒会やPTAの協力を得、生徒、保護者、教員いずれも積極的に気持ちの良い挨拶ができています。
- ・SDGsに関する取り組みをものづくり教育に取り入れ、アクアポニックスに関する研究については環境問題を正しく理解し、資源のリサイクルに積極的に取り組み、生徒から発信する取り組みが出来ている。
- ・人権教育に関する講演会や研修、教育相談、保健委員会の活動により規範意識や人権意識の向上、相手への思いやりについて、様々な機会を通じて、粘り強く指導している。

#### (2) 学習活動の充実について

- ・インターンシップデュアルシステムでは、学校では学ぶことのできない最新の施設で意欲的に学ぶことができ、生徒からも好評であった。
- ・OJT研修チームでは、設定したテーマに基づく研究授業を、公開授業週間を活用して提案し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開を工夫することができ、教員の授業力向上につながった。

#### (3) キャリア教育について

- ・各担当分掌がよく連携して進路実現の充実を図ることができ、学年ごとの取り組みで進路意識を高めることができた。最終的に 3年：就職72%進学28% (実績)、2年：就職66%進学24% (希望)、1年：就職70%進学16% (希望) となっている。また、各専門科が企業と連携し、外部講師による講演会を実施し、キャリアアップに繋げることができた。

#### (4) 開かれた学校づくりについて

- ・県内の高校ALTとの「ものづくり教室 in English」、海外企業とのオンライン国際交流によるグローバルプロジェクトを通じて興味・関心を高めることができた。
- ・オープンスクールでは前年度より約100人の参加増があり、より多くの中学生が体験できるように工夫した。中学校2年生も対象としオープンスクールの充実を図った。
- ・ものづくり教室や出前授業など、地域に出かけて働きかける「TokoTokoプロジェクト～東工地域学～」は、活動に多くの生徒が参加し、初期の目標を超える活動ができた。

#### (5) 校内組織の活性化と人材育成について

- ・業務の効率化に学校全体で取り組んだ。クロムブックを利用したICTの利用も進み、会議ではペーパーレス化に取り組んだ。また、朝の欠席・遅刻連絡をオンラインに変更したことは大きな業務軽減となった。

## 2 学校関係者評価委員名

- ・鶴海 元 (同窓会会長)・井勝 久喜 (吉備国際大学副学長)・長谷井 賢治 (前PTA会長)
- ・谷田 実知子 (PTA副会長)・吉澤 洋一 (山陽電研株式会社常務取締役)

## 3 学校関係者評価

- ・5Sはよくできているので、生徒に実習室など確認をさせてみてはどうか。
- ・よく挨拶が出来ているように感じる。ものづくりに向けた積極的な取り組みや、熱い情熱を感じた。ぜひ魅力を中学生に伝えてほしい。
- ・先生方はとても頑張っている、出前授業などはどのように引率しているのか。
- ・アクアポニックスや校外での発表など素晴らしい取り組みをしている、発表などで賞をいただけるのは素晴らしい。

## 4 来年度の重点目標 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ・SDGsの取り組みについて、アクアポニックスの研究については科を超えてものづくり教育に関連付けるように実践する。また、大学や他校と連携し研究を行う。
- ・企業と連携した生徒の学びの充実をさらに図っていく。
- ・PBLの充実に努め、生徒の自己肯定感・自己有用感の育成を図りさらに充実させる。
- ・インターンシップを中心にキャリア教育の推進に努め、進路意識の高揚と進路実現を図る。